彙報

左右田博士の特別講義

京大文學部哲學科にては、十月廿五日より四日間毎夜七時より左右田喜一郎博士に由つて左記の題目の許に特別講義を行つた。

目的論について、

哲學會例會

十月廿日(金)午後七時より學生集會場にて開會左の講演があつた。

對象の性質について、　文學士　伊東　法俊君

講演後旺んな論議が出た、來會者、西田朝永兩教授、加川、蒲地觀山、赤松、吉田、務臺其他學生多數、

倫理學會例會

十月廿日午後六時より學生集會場にて奈良女高師教授文學士伊藤惠氏の講演があつた、

カントとマルクス。

藤井教授、阿部、楠見、鈴木、安富、伊藤(猷)森下、井上、宮城、世良の諸氏其他學生、

金曜會例會

十月六日(金)午後六時より學生集會場にて左の題目に就き西田教授の御話及びそれに關する多くの質議があつた。

社會と個人(哲研四月號)

行爲的主觀(同　九月號)

美　と　善(同　　上)

來會者、久松、伊藤、岩井、世良、務臺、大脇、白井、伊東、濱田、森川、立花、吉田、加藤、赤松の諸氏。

倫理學會、教育研究會

兩學會は臨時一緒になつて歐米教育視察ゐされて歸朝されたばかりの小西先生から「歐米旅行談」と題する講演を九月二十八日午後七時から學生集會場で聞いた。

御話は英國の教育學者ホルムス氏の學說、獨逸サクセンの戰後の教育改革、米の黑人教育等他に獨逸に於ける修身に就て修身科と宗教との關係に關する諸種の會議諸學者の論爭につき詳しき紹介があつた。其間にピラミッドを背景にして一行の駱駝上の寫眞ホルムス氏と散歩され際の寫眞、數時間を費して探し出されたアダムスミス氏の墓標の寫眞其他書籍、繪葉書等珍らしき參考品多數示され、御話後會員より諸種の尋問出で興味尽きざる内に時間が來たので閉會した。

此日教育研究會の會員は特に五時から會合し、小西先生御歸朝歡迎會、小西先生御旅行中本會の指導をして下さつた藤井野上兩先生に對し謝恩會を開いた。席上にて型の如き挨拶の後小西先生から堤隆君の近況の報告あり。會員一同より同君に宛て慰問狀と菓子料とを贈る事にした。

此日特に大阪より西居鎮證君、奈良より伊藤惠君、近江八幡より大西豐文君來られ、其他會するもの二十五名頗る盛會であつた。

心理學讀書會

十月五日(木)午後三時半より實驗室にて開催

English; An experimental study of certain initial phoses of the process of abstraction.　大脇　義一君

十月十二日(同前)

Galloway; Psychological Basis of Religion.　岡　道固君

Societas Spinozana について

小尾範治

H. Obi, c/o Japanische Botschaft, Berlin

この六月頃當地の新聞でこの協會に關する記事を讀んで、早速ドイツの代表委員である Dr. C. Gebhardt 氏に入會を申込みましたところ、同教授も大變に喜ばれ、既にヨーロッパ各國並にアメリカでは多數の會員を得たが、東洋には協會のことが知られてゐない爲か、これ迄入會こ者を得なかつた、此機會に東洋からも多數の會員を得たいといつて參りました。私は同氏に日本に向つて協會の宣傳をすることを約束しました。それでこゝに私は我が愛慕する哲人の爲に、この際同協會に入會されることを同好の方々に御願いたします。そして入會に關する勞を執ることは私も決して厭ひませんから、御遠慮なく御申越下さい。

尙御參考までに同協會の要項を左に御紹介いたします。

一、本會は一九二〇年七月一日ハーグに於て設立され、本部をそこに置く。

一、本會はスピノーザ哲學の研究を促進することを目的とする。

一、この目的を達する爲に本會は、

イ、定期間に會議を催すこと、

ロ、スピノーザに關する稀なる書籍、註解書、その他の記錄を出版すること、

ハ、スピノーザの學說及び生涯に關する各種の新しき研究を掲載せる年報を發行すること。

一、會員には正規の出版を頒つ。

一、會費は年額五グルデン(オランダ)又は十シルリング(イギリス)又は最少限百マルク(ドイツ、但しこれは今日の爲替相場では餘りに少ないので適用されますまい)

一、入會申込は

本　部——Dr. W. Meijer, Van-der-Heim traat 14, Hang, Ho lande.

イギリス——Mr. L. Roth, Exter College, Oxford, England.

支　部

ドイツ——Dr. C. Gebhardt, Frankfurt a. M.

支部　Röderbergweg, 170, Deutschland.

一、第一回の年報は既に發行され、それには Höffding. Meijer, Pollock, Brunschvicy, Dunin-Borkowski, Halpern, Wolffon, Gebhardt 諸氏の研究が掲載されてゐる。

新著紹介

トレルチ著　宗教哲學の主要問題

佐野　勝也譯

「カントに還れ」といふ叫びによりて新しい哲學が生長し始めた頃宗教哲學も亦カントに還るべきであつた。然しながらカントに還る事はこゝでもカントを超える事でなければならぬ。カントの自ら試みた宗教哲學は實は其意味を失つてゐる。新しい宗教哲學の進路はカントの宗教哲學をさながらに繼承する事ではなくてカントの批判哲學の根本精神を深く理解して、豐富なる宗教的對象に對し新なる立場を決定するにある。かゝる態度を取つた宗教哲學者の中神學者より出でゝ最も錚々たるものはトレルチである。

トレルチの宗教學に關する根本思想を窺ふには此書の外Wildelband の Die Philosophie im Beginn des XX. Jahrhundert I 中に編せられた、Religionsphilvsophie (1904) 及彼の論文集第二卷に收められた Das Religiöse Apriori (1909) 等の論文がある。

彼によれば學としての宗教學は神學宗教史より始めて宗教心理學宗教認識論宗教歴史哲學を含む體系である。此中宗教學の中心問題となすものは宗教心理學と宗教認識論である。就中中核をなすものは宗教認識論である。宗教心理學と宗教認識論との關係を特に問題として取扱つたものがその原名の示す如く此書である。だから小册子ではあるが、彼の根本思想を見る爲には一般に此書が用ひられてゐる。

凡て公然なる綜合は嚴密なる區別を豫想する。區別は綜合の爲めであり、一先づ嚴密に區別する事によりて綜合が必然となる。凡て學問には不徹底と混雜が一番悪い。彼は本書に於てゼームスの「宗教的體驗の種々」の批評より始めてゐる、彼は該書に於て本質的に純粋經驗的なる宗教心理學的著作を見た。此書が經驗的宗教心理學として純粋であり徹底的である丈け、それ丈け、然し乍ら、明に宗教心理學の限界を示してゐる。宗教心理學の限界とは宗教の眞理内容及び妥當に關する問題である。かゝる心理學にとりての限界問題を解決するものは、宗教認識論である。カントによりて最も明に提唱せられた、新謂形式的合理主義に於て眞によく、その限界を守り宗教心理學と相悖る處なき認識論を認めた。かくて我々はゼームスよりカントへ還り行かねばならぬ。彼はカントの認識論を四項に分つて是正して以て自己の思想を述べてゐる。

要するに、現實なる宗教は神秘的體驗の中に於て合理的法則が非合理的具體的個別的心的事實と結合する事に於て完成する從て宗教の學としての宗教學は宗教の心理的現象の特殊性を捉へる事を任務とする宗教心理學と宗教意識中の先天的合理的要素を探求